

氏名(本籍)	楊 靜 (台湾)
学位の種類	博士(デザイン学)
学位記番号	博乙第2596号
学位授与年月日	平成24年3月23日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	台湾の工業デザイン創始期における外国人専門家の役割 - 1950～1960年代を中心に -
主査	筑波大学教授 蓮見孝
副査	筑波大学教授 岡崎昭夫
副査	筑波大学教授 齊藤泰嘉
副査	筑波大学教授 山中敏正

論文の内容の要旨

(目的)

本論文は、第二次世界大戦後の1950年代から1960年代に至る台湾工業デザインの創始期において、「米援」(米国からの経済的援助)を受けて設立された「台湾手工業推進センター」(THPC)と「中国生産力及び貿易センター」(CPTC)によって招聘されたアメリカ、日本、ドイツからの外国専門家が、台湾の産業と工業デザインの振興にどのような役割を果たしたかを、専属機関の成立や発展政策の形成経緯と対照させながら明らかにしようとするものである。

(方法)

台湾では終戦直後の資料が散逸しており、その収集・整理は極めて困難な作業を要求される。本研究では、アメリカ、日本、ドイツに現存する史料・文献の収集と当時の関係者へのインタビュー調査を通じて、歴史的に封印されたかに見える史実を明らかにし、記録しようとする。特に関係者は高齢となり亡くなる者も多く、インタビューの実施は迅速におこなう必要がある。本研究では、1950年代にTHPCが主導した時期を「播種期」、1960年代にCPTCが主導した時期を「萌芽期」と位置付け、それぞれの時代的特徴と外国人専門家の役割について、収集した詳細な資料をもとに考察する。

(結果)

史料・文献収集は、(1) THPCとCPTCに関する資料収集、(2) アメリカ、日本、ドイツの図書館等に収蔵されている文献の収集、(3) アメリカ、日本、ドイツ、台湾の関係者へのインタビューと各自が収蔵する会議記録、講義資料、成果報告書、写真などの調査、という3方向のアプローチによりおこなった。

この調査研究により、多くの貴重な史実を明らかにすることが出来た。米援として、1951年からの15年間に総額14.82億ドルが提供され、本研究に関連する外国専門家の台湾への招請や人材の海外派遣などは、後期計画型援助に属していた。

1950年代播種期において、THPCは主に手工業の発展とその輸出振興を画策し、アメリカのR. Wrightを中心とする「ライト技術顧問団」に属するアメリカの専門家チームが多数渡台し、台湾での手工業に使用さ

れる原材料の調査をおこなうとともに、大量生産システムに則した工芸製品のデザイン手法の導入や輸出販売の方策について支援した。

1960年代に入ると、CPTCは「製品改善組」を設立し、アメリカの専門家 A. Girardy を招聘した。工芸が専門であった彼は工業デザイン振興の必要性を痛感し、その指導者として小池新二を招聘した。小池は台湾の視察や基調講演の後、「小池建議書」を提出し、1963年にCPTCは、小池建議書をモデルに、人材の育成を最重要目標とする「CPTC 建議書」を策定し、その実行を図った。CPTC 建議書により、夏期訓練班が企画され、吉岡道隆を代表とする指導団が構成され、台湾で指導した。指導方式として「経験の授業方法」が重視され、日本とドイツの専門家がともに講義をした。

(考察と結論)

本研究を通して、戦後台湾の工業デザインの創始期における工業デザイン振興のプロセスと外国人専門家の役割を明らかにすることができた。1950年代の播種期は THPC が主導し、手工芸品の輸出導向を前提としながら、デザインの力を工芸産業の振興に活用する施策がおこなわれ、台湾の地方工芸に近代的量産システムの考え方が導入され、台湾手工業品のアメリカ市場開拓につながった。1960年代の萌芽期はCPTCに置かれた「製品改善組」の活動が活発におこなわれ、「CPTC 建議書」に沿って、アメリカ、日本、ドイツの専門家が招聘され、先進国の工業デザインの知識や理念、教育課程が導入された。同時に、デザイン教師の育成を目的として優秀な人材を多数海外留学させ、専門学校における工業デザイン学科の設立をサポートすることにつながった。さらに、デザインの専門的人材育成は、産業界に優秀なデザイン人材を送り込むことにつながり、台湾の工業デザインの堅固な基礎を打ち立てた。そして、今日に至る台湾の工業デザイン教育の発展にも大きな影響を及ぼした。

以上の研究結果から、1950～1960年代に台湾に派遣された外国人専門家は、台湾の手工芸の近代化と輸出の促進、また工業デザインの振興を通して台湾の近代化に大きな役割を果たしたことが明らかとなった。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、資料が散逸している第2次世界大戦直後の台湾の工業デザイン創始期の記録を、台湾国内のみならずアメリカ、日本、ドイツにおいて丹念に収集し、また生き証人である関係者をくまなく訪ねてインタビューをおこない、まとめ上げた極めて資料価値の高いものである。さらに資料収集に終わらせず、台湾政府やアメリカによる専属機関の成立や発展政策の形成経緯と対照させながら、その構造化を試み、アメリカ、日本、ドイツの専門家たちの位置付けや役割を明らかにしている優れた論文である。

平成24年1月26日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、学力の確認を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（デザイン学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。